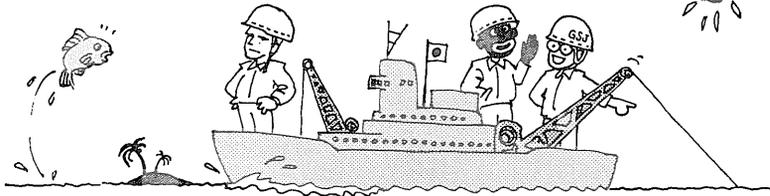


海外室だより



No. 20

海外研究員招へい制度 その1

海外との研究交流活動は いまさら言うまでもなく年々大変活発に進められて来ています。研究者の人的交流においても 我が国の研究者が 在外研究や国際研究集会などのために渡航する機会は増加していますし そのための各種制度も 少し大袈裟に言えば その全貌を的確に掴んでおく事が困難なほど 多岐に亘って設けられています。これに比べて 外国の(特に先進国の)研究者を日本に招く制度は極めて少なかったのがこれまでの現状でした。貿易不均衡が大きな国際問題になっていますが 対先進国研究者交流の面でも 同様な事態が続いていた訳です。こうした背景への反省もあってか 近年になって 海外研究員招へいの道を拓こうとする試みが 僅かずつながら実現の方向へ進み始めました。ところが 肝心の日本側研究員の間では 招へいの制度に対する理解が必ずしも十分でなく 折角の機会を空しくしてしまう例も少なくないようです。招へい制度の種類によって 本院の募集元に研究業務課と国際研究協力課の2系統があり 当所の応募窓口も企画室と海外室との2本立であるなど 事務手続上の問題もありますが この方は窓口同志での調整を企てることとしてここでは 招へい制度の概要と応募に際しての要点について紹介しておくことにします。

きたいことは次の3点です。

- ①招へい期間は1人最高3カ月。
 - ②期間中の滞在費は支給するが往復旅費の支給はない
 - ③申請に際し被招へい者の署名入り応募書式が必要
- 本件の一次募集が研究所へ来るのは 例年1月中旬頃で 申込締切は2月15日前後です。申込時には先の③の添付が不可欠ですから 招へいを予定する研究員との間では できるだけ早い時期から① ②などの条件を連絡し 希望調査の以前に③を含む申請書式を整えておくぐらいの準備が望ましいことになります。

各試験研究所からの希望を本院で調整し 次年度の招へい予定者を3月初旬に選定の上 内定者は各研究所に通知されます。内定者についての正式書式が整ったところで 新年度の招へい者名簿が3月末日までに確定する運びになります。

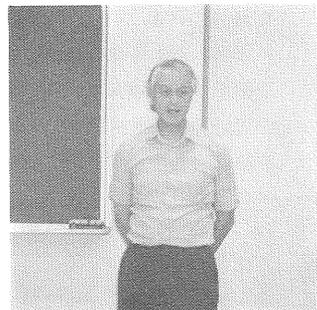
因みに 昭和61年度には10試験研究所に対し17名の研究員が招へいされました。当所においては 服部地質部長の責任招へいにより ロンドン大学からバーバー博士が来所し 約1カ月半 「アクレーションテクトニクスからみた日本列島の骨組み」のテーマで 精力的な研究交流を行いました。また 折から開講中の沿海コース集団研修で特別講義をして頂き 途上国からの研修員へこの上ない刺激を与えてくれました。写真はその時のスナップです。(遠藤)

工業技術院海外研究員招へい制度

通称「技術立国プラザ」と呼ばれ 海外研究者の招へい制度の不足を改善し 海外の優れた研究者と工技院の研究者間の交流により試験研究所が行う先端技術開発の効率的かつ飛躍的な推進を図ることを目的に 昭和59年4月に制定されました。

招へい対象は 「工技院試験研究所で進行中の先端技術に関する研究分野において 試験研究に従事し かつ 高度の専門的知識を有する者」となっています。

以下 本制度の実施要領には手続等の詳細が述べられていますが 招へいを計画するに際して知っておいて頂



これから開催される地学関係の主な国際会議

名称, 会期, 場所	連絡先	要旨締切, 登録料等
XVI Pacific Science Congress 1987年8月20—30日 Seoul, 韓国	Prof. Choon Ho Park, Secretary Organizing Committee XVI Pacific Science Congress K. P. O. Box 1008 Seoul 110, Korea	要旨締切済 US \$ 250
Intn'l Symposium on Tectonic Evolution and Dynamics of Continental Lithosphere 1987年8月24—28日 北京 (Beiging), 中国	Dr. Wang Zejiu, Secretary Organizing Committee of TEDCL c/o Chinese Academy of Geological Sciences Baiwanzhung Road 26, Fuchengmenwei Beijing, China	要旨締切済 US \$ 150
Intn'l Symposium on Petrogenesis and Mineralization of Granitoids 1987年12月7—10日 広州 (Guangzhou), 中国	Dr. Qiu Yuzhuo or Dr. Zhao Zhenhua ISPMG c/o Institnte of Geochemistry, Academia Sinica Guiyang, Guizhou Province China	要旨締切日等不明 (2nd Circular で) US \$ 150
Intn'l Alumuni Conference 1988年6月21—26日 Bali, Indonesia	East-West Center Alumni Office 1777 East-West Road Honolulu, Hawaii 96848, USA	詳細は左記へ問合せ

海外からのクリスマスカード

海外から当所に寄せられた今季のクリスマスカードの中で 公式とみなせる分は 約100通に達しました。いずれも大変に魅力的で甲乙つけがたいカードばかりでしたが その中から下の2枚を紹介しておきましょう。

左は ITIT や JICA による協力ですっかりお馴染みになったトルコ MTA からのもので ピラミッドを連想させる結晶(螢石?)をバックに マンガンナイトの柱状結晶の集合体を配した構図は 単なる鉱物標本の写真とは一味違っています。 右のイラストは “サンタの洞穴” の

壁を地質ヤがハンマーで叩いているところです。 サンタが洞穴に住んで居るかどうかはともかく 石のあるところ地質ヤありのネイモウさと迷惑そうなサンタの表情との対照がユーモラスです。 英国地質調査所からのカードです。

(河村・遠藤)

